新刊紹介

Dr. P. L. Vaidya
BAUDDHĀGAMĀRTHA-SAṂGRAHA

本書の著者はもとプーナの大學(Nowrosjee Wadia College)におけるサンスクリットの教授でもあつたし、またベナレスのヒンヅー大學(Hindu University)でサンスクリット及びパーリ語の講座主任を勤めたこともあつたが、いまは退いて Darbhanga にある Mithila Institute の director としてなほ活躍を續けてゐる篤學の士である。その意味において、インドにおけるサンスクリットの學者としてはその筆頭に數へなくてはならない人である。同じ著者によつて、今までに次のやうな勝れた述作が出版せられてゐる。

Prakṛt Grammer of Hemacandra
Prakṛt Grammer of Trivikrama
Mahāpurāṇa of Puṣpadanta
Kaṛṇaparvan of the Mahābhārata
Jasaharacārin of Puṣpadanta

これらはいづれも佛教以外のものであるが、今度ボンベイで出版せられた本書は、その名の示すが如く「佛教聖典要義集」とも名づけらるべきものである。これは釋尊の生涯とその教説とについて、佛教聖典の中から二百ばかりの要文を抄出して集錄したもので、サンスクリット(極めて少數)とパーリ語(大部分)との兩方にまたがつてをり、それらが次のやうな序論と五つの章とに區分せられてゐる。

英文とヒンディーとで書かれた序論——すなはち内容概觀

第一章　佛陀の所行——佛傳に關するもの五十二文を集めてゐる。ここでは Buddha-vaṃsa, Cariyā-piṭaka, Nidāna-kathā, Mahā-vagga, Mahāparinibbāna-suttanta 等の中から要文を選び、それを年代順に配列して一目して釋尊の傳記が原典に卽して理解できるやうにせられてゐる。

第二章　比丘・比丘尼の律——ここでは Mahā-vagga, Pātimokkha 等の中から二十五の要文を選んで、教團の罰則や規則・作法等についての一應の概念を與へ、それによつて教團人としての日常生活がどのやうなものであつたかについて、簡單に解るやうに工夫せられてゐる。

第三章　法——ここでは四つの Nikāya を初め Milinda-pañha, Visuddhi-magga, Madhyamaka-śāstra などの中から五十三の要文を集めて、緣起・四諦・中道・無我・涅槃等について說かれてゐる。分量の上からいつても一番大きな章で、一卷の中心をなす部分である。

第四章　雜——ここでは四つの Nikāya や Mahāvagga, Suttanipāta, Thera-Therī-gāthā などの中から十九の要文を選んで六師外道・アショカ王・ビンビサーラ王・アジャータシャトル王・デーヴダッタ・ジーヴカその他の佛弟子に關して述べてゐる。

第五章　結集——ここでは Samantapāsādikā, Cullavagga の中から五つの要文を選んで、現存の三藏ができ上るまでの歷史について述べてゐる。

序論の英文以外は全部デーヴナーガリ文字で印刷されてをり、原典に即して佛教を知らうとする者にとつては洵に好箇の資料を提供してくれる。本文三一四頁四六倍版、定價二〇ルピー（舟橋）

東洋思想と西洋哲學
―比較哲學論集―

C・A・ムーア編
三枝充悳譯

この書物は、ハワイ大學のムーア(Charles A. Moore)博士が編纂された《Essays in East-West Philosophy—An Attempt at World Philosophical Synthesis, University of Hawaii Press, Honolulu, Hawaii 1951》の飜譯（抄譯）であり、その原著は「第二回東西哲學者會議」に出席したアジア及び歐米の諸學者の論文から成つてゐる。內容は「會議」の構成通り、Ⅰ方法論、Ⅱ形而上學、Ⅲ倫理學及び社會哲學の三部に分れてゐる。

譯者は比較哲學を基準に置いて、原著の中から比較哲學に關する總論に當るもの七篇と各論に當るもの七篇とを選んで抄譯してゐる。

參考のため原著目次をあげ、その中、本書に掲載されてゐるものゝ上に○印を附けておく。

○チャールズ・A・ムーア「緒言―世界の哲學の綜合の一つの試み」

Ⅰ　方法論

○鈴木大拙
「佛教哲學に於ける理性と直觀」

E・R・ヒュージ
「シナ哲學に於ける認識論の諸方法」

○ディレンドラ・モハン・ダッタ「インド哲學に於ける認識論の諸方法」

スワーミー・ニキーラーナンダ「インド哲學に於ける方法論としての意識集注と瞑想」

○エドウィン・A・バァト「東西哲學融合の方法に關する基礎的諸問題」

ウィリアム・レイ・デネス
「經驗的自然主義と世界理解」

○フィルマア・S・C・ノースロップ「東洋と西洋の方法論と認識論」

Ⅱ　形而上學

○陳榮捷
「シナ形而上學に於ける諸綜合」

○グナパラ・ピヤセーナ・マララセーカラー
「長老佛教（小乘佛教）の教える實在の諸相」

○花山信勝「大乘佛教」

○P・T・ラジュー「インド哲學に於ける諸形而上學說」

スワーミー・ニキーラナンダ
「ウパニシャッドの不二一元論的見解に於ける梵の性格」

○ジョン・ワイルド「西洋のレアリズムの基礎概念と東洋思想との關係」

○ジョージ・P・コンガー「統合」

○ウイルモン・ヘンリー・シェルダン
「東西哲學の主なる對比」

Ⅲ　倫理學及び社會哲學

梅胎寶「シナ哲學に於ける社會的・倫理的・精神的價値の基盤」

○T・M・P・アハーデーヴァン「インド哲學に於ける社會的・倫理的・精神的價値の基盤」

C・P・ラーマースワーミー・アイヤール「インドの政治組織・社會組織に於ける哲學的基礎」

（九十五頁へ續く）